４年３組 体育科学習指導案

平成 30 年 10 月 23 日(火)　13:05～
場　所：体育館
授業者：八代　吉正

（１）ねらい　１本目のパスをふんわりとコート前方につなぐことで，得点をめざすゲームをすることができる。
（２）評価規準　１本目のパスをふんわりとコート前方につなげて返すことや，２本目を打つときは前方で構えて待つことを動作や言葉で伝えている。【思考・判断】
（３）評価方法　ゲームで，前方にパスをつなげるように，キーワードを使って声をかけているか見届ける。学習カードにパスを前方につなぐことを意識したプレイを振り返って記述しているか見届ける。

１ 単元名

『ソフトバレーボール』
〔E　ゲーム　イ　ネット型ゲーム〕

２ 指導の立場

（１）教材観

ソフトバレーボールは，ネットで区切られたコートの中で攻防を組み立て，ボールを手ではじくという動作で自陣から相手のコートに向かって返球し合うゲームである。そのため，相手の動きにとらわれることなく，自分たちの運動の技能を高めることができる教材といえる。やわらかい材質のボールを使用するため，ボール運動に苦手意識をもっている児童も安心してゲームに集中できる運動である。

コートの広さや触球回数，キャッチ等のルールを工夫することにより，児童の実態に応じた易しいゲームにすることができる。そのことにより，仲間と関わり合い，パスをつないだりラリーを続けたりするネット型のゲームの楽しさを感じることができる。以上のことから，キャッチを取り入れたソフトバレーボールは，高学年につながるバレーボールを基にした易しいゲームとして４年生に適した教材であると考える。

（２）児童観

（３）指導観

本単元を通して，個々の基本的なボール操作の技能を高め，グループの仲間とボールをパスしてつなぎ，相手コートに返球して，得点をめざすゲームを楽しんで行うことができるようにしたい。基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを高めることを目指し，声をかけ合って運動できるようにするために，毎時間の技能ポイントに応じて，キーワードを設定し，サイドコーチを中心に，進んで声をかけられるように指導する。また，考えたことを伝え合うことが高まりにつながったと実感できるように，毎時間，仲間にかけてもらった声をふり返る。

３ 本時の展開（５／７）

	学習内容および学習活動	指導・援助（★高め合うための指導・援助）
つかむ	**１　準備および準備運動** ・グループごとに準備し，準備運動をする。 ・オーバーハンドパスの練習をして，基礎技能を高める。 **２　全体会（本時の課題，活動内容の確認）** ・前時のゲームの様子を映像で見て，コート前方にパスをつないでいる良さに気付く。 ○１本目のパスをコート前方につないで相手コートに返し，得点を取って勝とう。 ●パスをつないで確実に返せるように声をかけ合ったり，良さを伝え合ったりして運動する仲間になろう。 【キーワード】「２本目○○さんね」「前に」「ふわっと」 **３　グループ計画会（めあての確認）** ・リーダーが中心となってグループ計画会を行う。 ・対戦相手や試合場所を確認する。	・グループで協力して準備をし，活動に向かう意欲を高める。 ・反復練習によって基礎技能の習得を図る。 ＜３つの見届ける－**実態**を見届ける＞ ★自分たちの運動の様子を把握し，課題を明確にする。 ・映像を用いることで，めざす動きを具体的にイメージできるようにし，本時の課題につなげる。 ・前時までに多く得点を挙げたり勝ちが先行したりしているチームのパスのつなぎ方を取り上げることにより，勝利への意欲を高め，パスを前方につないで返球することが良いと気付くことができるようにする。 ・いつ，誰に，どのキーワードを使って声かけをするか確認し，ゲームの中で自分から声を出せるようにする。 ・実際にコートで動きながら練習することで，よい動きのイメージを共有できるようにする。 ・個人課題がもてない児童に対し，個別に声かけをする。
深める	**４　前半ゲーム（５分×２回戦）** ・認め合い，励まし合いの声をかけ合い，得点が決まったときにはハイタッチをする。 ・サイドコーチは仲間のプレイを見て，どのようにパスをつなぐとよいか伝える。 **５　中間研究会（よい姿の交流と課題の確認）** ・ふんわりとしたボールで前方の仲間にパスがつながっているチームを紹介したり，よいプレイを引き出した声かけを紹介したりして，パスをつないでいるプレイの具体的なイメージを再確認する。 ・前半ゲームをふまえて，キーワードの再確認を行う。 **６　後半ゲーム（５分×２回戦）** ・前半ゲームや中間研究会を生かしてゲームを行う。 ・サイドコーチだけでなくコート内でもキーワードを使って声をかけ合う。	★サイドコーチを中心に，キーワードの声をかけ合う。 ・認め合い，励まし合いの声，プレー後のハイタッチについても，集団を高める声や関わり合いとして認めることで，全体として声を出しやすい雰囲気をつくる。 ・ボール操作がうまくいかない児童には，前時までの技能ポイントを「おでこ」「おにぎり」等のキーワードで声かけし，意識できるようにする。 ・ボールの落下点に移動することが苦手な児童には，しっかり構えたりボールにへそを向けたりすることを意識するように声をかける。 ＜３つの見届ける－**学習状況**を見届ける＞ ・ゲーム中に，サイドコーチとしてキーワードを使って的確な声をかけたり，動作で伝えたりしている児童を価値付ける。 ・サイドコーチとしての声かけが難しい児童には，教師が一緒になってサイドコーチの役割をし，適切な声かけの例を示す。
まとめる	**７　グループ反省会（グループと個の振り返り）** ・リーダーが中心となって反省会を行う。 **８　全体会（本時の振り返り）** ・本時の課題で達成できたことを認め合う。 ○１本目をコートの前の方に上げると，確実にボールが返せた。 ●確実につないだり，返したりする声をかけ合うことができた。 **９　片付け** ・グループごとに協力して片付ける。	★課題の達成状況を自己評価，相互評価する。 ・リーダーが「グループ会司会表」を見ながら，スムーズにグループ会を行えるようにする。 ・本時，頑張ったことや仲間にかけてもらった声を交流することで，互いに認め合えるようにする。 ・全体会で，前方にパスをつなげるための声をかけた児童や，パスをつなげて得点を取ったチームを価値づける。 ＜３つの見届ける－**定着状況**を見届ける＞ ・本時のポイントを意識できたか，キーワードを使って仲間に声をかけることができたかを自己評価し，挙手で達成状況を確認する。

４ 研究内容との関わり

【研究内容Ⅰ】
②導入・課題化の工夫

授業の導入時における課題化の場面において，ICT 機器を活用して実際の児童の様子を映像で確認する。映像で見せることにより，前時のつまずきや課題を明確に共有できる。また，自分たちの動きを客観的に見ることで，運動中には気付けないポイントに気付き，その良さを確認することができる。

本時の課題につながる顕著な場面を抽出して取り上げ，スロー再生や一時停止をしながら視覚的に印象づけ，課題をとらえることができるようにする。

【研究内容Ⅱ】
②関わり方の指導
③活動形態の工夫

仲間と関わり高め合う声を出す場面として，前半ゲーム２回，後半ゲーム２回を行う。

前半ゲームでは，前方にパスをつなぐために，サイドコーチの役割が重要であることに気付けるようにする。サイドコーチの声が効果的に機能した場面を取り上げて価値づけ，積極的に声をかけるよう雰囲気づくりを行う。

後半ゲームでは，サイドコーチが活躍できる場面を増やしたい。そのために，中間研究会では，「いつ（どんな状況の時）」「誰に」「どんな」声をかけるとよいのかを考える。技能が高まるための声として，キーワードをグループで共有するよう声をかける。また，キーワードとともに，動作で伝えて技能を高めようとしている姿を価値づける。

【研究内容Ⅲ】
①評価の工夫（自己評価力の育成）

グループ反省会においては，運動の側面と集団の側面の振り返りをする。具体的には，計画会で立てた個の課題を振り返るとともに，グループの仲間がかけてくれた声を振り返って交流する。そうすることにより，仲間との関わりが自分やグループの運動の高まりにつながっていると実感できると考える。